

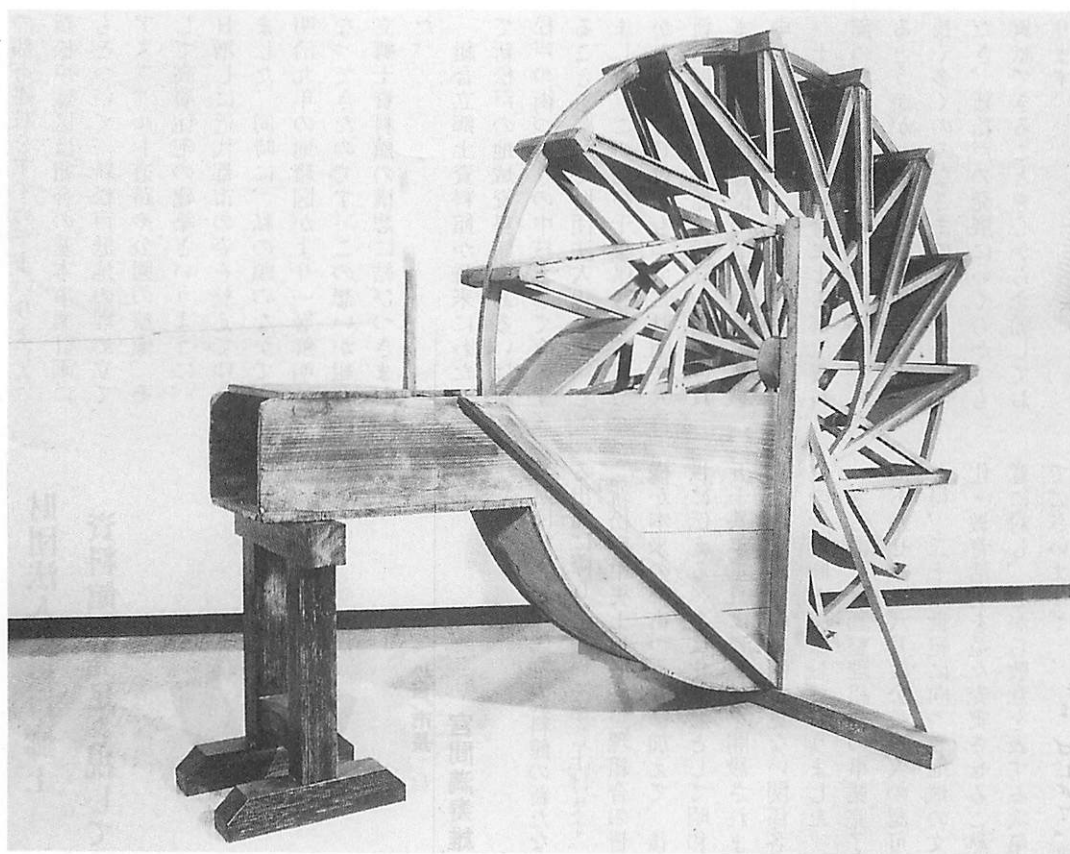
みず
水

ぐるま
車



(財)新松戸郷土資料館館報

創刊号



財団法人 新松戸郷土資料館

〒270 千葉県松戸市新松戸3-27

新松戸市民センター(三階)

電話 0473-44-1909

発行年月日 昭和61年11月1日

もくじ

- ◇民具写真 一水車一..... 1
- ◇財団法人の発足にあたって..... 2・3
- ◇新松戸の都市化
大字・小字・地図
都市化年表..... 4・5
- ◇寄稿..... 6・7
- ◇(財)新松戸郷土資料館役員職員紹介..... 7
- ◇「水車」「おもだか」..... 8

財団法人の

設立にあたって



理事長

大倉 邦夫

一日の仕事が終り、大谷口の我が家に向うとき、決まって私の頭の中に浮かぶものがあります。それは、和紙に書かれたあざやかな青色の用水路、朱色の畔、茶色の道、そして黒字の地番のある明治九年の地籍図です。

先人たちが営々として土地に労働を刻みこんできた歴史の記録にほかなりません。また、明治九年の地籍図は新松戸地区が近代都市に生まれ変わる以前のおもかげを伝える絵図でもあります。

私たちの松戸市新松戸中央土地区画整理組合は、古い歴史のある新し

い街新松戸を相言葉にして新松戸の都市建設をすすめてまいりました。新松戸地区は組合の基本事業計画にもとづいて、新松戸低地の埋め立て、アスファルト道路や公園の整備、そして高層住宅の建築というように、日増しに近代都市の姿を整えてゆきました。同時に、私の頭のなかでも明治九年の地籍図がより一層鮮明になってきたのです。この想いが組合立郷土資料館の構想に結びつきました。

組合立郷土資料館が将来にわたって新松戸の地域資料館、あるいは新松戸の街づくりの中核として存続することを願って財団法人化を申請しました。このたび千葉県教育委員会から八月一日付をもって、財団法人新松戸郷土資料館の設立が認可されました。関係各位の御尽力に御礼を申し上げます。

土地区画整理組合による郷土資料館の設立は全国でも唯一の事例であるとうかがっております。当館が未長く多くのみなさまの御活用をいただき、新松戸の発展にいくらかでも貢献できることを心から願っております。

財団法人新松戸郷土

資料館の発足を祝して



松戸市長

宮間満寿雄

財団法人新松戸郷土資料館の新たな出発に際し、お祝いを申し上げます。

新松戸中央土地区画整理組合の皆様が本来の都市づくりに加えて、後世に伝えるべき文化遺産として昭和五十八年三月に資料館を開設されたことは、他に例を見ない関係各位の大英断と感服しております。

さらに、区画整理組合の事業完了にあわせ本年八月に公益法人の認可を得、二十一世紀に向けて地域の文化・教育活動を益々充実させるご熱意に対し、心から敬意を表する次第でございます。

新松戸は、市内で最も人口増加が

あり、発展著しい地域です。昔日の面影が次第に薄れていく中で、この郷土資料館が地域の人々の善意に支えられて、大切なふるさと意識を醸成させる核として一層発展されますことを祈念し、お祝いの言葉と致します。

財団法人新松戸郷土

資料館の設立を祝して



松戸市教育長

庄司 正

新松戸郷土資料館は、新松戸中央土地区画整理組合の記念事業として昭和五十八年から開館され、その文化活動に対し衷心より敬意と感謝を申し上げます。

新松戸が、首都圏の都市化に対応した理想的な街づくりによって、穀倉美田が立派な街に変貌し、発展していることは喜びにたえません。

私は、今日の街の姿を見ると、新松戸郷土資料館の意義の深さを痛切に感じます。

郷土資料館は、それぞれの地域の自然や地理的条件を背景として、長い年月に培われた先人の文化・習俗・民俗資料であって、郷土の過去の歴史を後世に正しく理解していただく貴重な文化遺産です。

この八月からは、公益法人として財団法人新松戸郷土資料館の設立認可を得、郷土資料を地域の方々や市民に公開すると共に教育普及事業等も計画され、松戸の郷土愛の高揚に明るい住みよい街づくりのため、教育機関として今後の活躍、ご発展を祈念し設立のお祝いの言葉といたします。

財団法人新松戸郷土資

料館の発足をお祝いして



新松戸支所長

大倉 勝

新松戸郷土資料館が、此の度財団法人として改組新発足をいたしました。

これは、新松戸地域にとりまして、大変意義のあることと存じます。

新松戸郷土資料館は、去る昭和五十八年三月に新松戸中央土地地区画整理組合により開設され、館長をはじめ理事の方々のご努力により資料館としての基礎もでき、今日まで立派な業績をあげて参りました。

今回、更なる発展を期し、新松戸の歴史と民俗資料を後世に伝えるべく、祖先の代より此の地に居住されている有志の方々の尊い提出によって財団法人を設立、資料館の運営をされるということは全国的にも例のない快挙であると思います。

ところで、新松戸支所が開設された昭和五十六年五月の管内人口は、四一、〇〇〇人、五年後のいまは五四、〇〇〇人を超えております。

新松戸は只今大躍進の途上にあるわけですが、この人工都市新松戸も元の姿は緑風薫る豊饒な田園地帯であり、そして幾世代にもわたって営まれた生活の場でもありました。

過去から現在に変貌してきた姿を

この街に住む人々に知って頂き、我が街新松戸の意識高揚につながるよう期待したいものです。

館長はじめスタッフの皆様の資料の収集、研究あるいは文化活動等、今後のご活躍と資料館が地域の人々に愛され、益々発展されるよう祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。

財団法人新松戸郷土

資料館設立にあたって



館長

大井 弘好

昭和五十八年三月二十四日に新松戸中央土地地区画整理組合の記念事業の一環として、全国でもまれな組合立の新松戸郷土資料館が誕生いたしました。

開館以前も、またそれ以後も引続

き地域の関係者の方々からは、深い御理解と御協力または展示物の御寄附等、ひとかたならぬ御好意と御厚情を賜りましたことを改めて御礼申し上げます。

また昭和六十一年八月一日には皆様方のお蔭をもちまして、財団法人新松戸郷土資料館としての認可を受けることができましたことも、大変に喜ばしい事と存じております。

昭和四十五年九月迄この新松戸の戸数は三十二戸、人口一六三人であったものが、昭和六十一年九月には戸数九、〇四〇戸、人口二八、八〇〇人という人口増となりました。新松戸となったこの地で産声を上げた子供達と、この街のシンボルともいうべきけやきの街路樹の豊かな成長等を見つめつつ、新松戸郷土資料館は何千年も以前の干潟にはじまったこの地の歴史に加えて、昭和四十五年以降の新しい時代を皆様と共に歩みながら、人々のくらし、自然等を次の世代へと遺していく手助けの一端を担って行きたいと存じております。今後とも末長く御協力、御利用いただきたくお願い申し上げます。

新松戸の都市化

昭和四十年代前半までのこの新松戸は低湿地の田園地帯でした。

寛永年間（一六二四～一六四四）

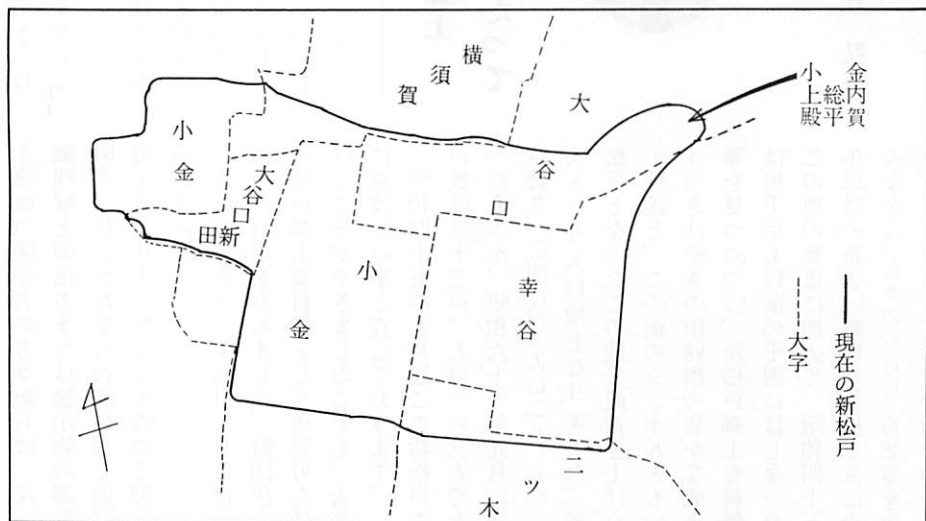
に開発の鉄が入った当時に六、七軒あったといわれる民家は、その後明治五年（一八七二）になっても戸数十五戸、人口百名にしか増えませんでした。なぜならば古くからこの土地が水害の常襲地帯であったためでした。しかし、先祖代々この地に住んでいた人々は、この土地を人々が定着できる土地にしなければと考えておりました。その後排水の設備が整い、土地も肥沃となり、松戸の中でも最も収穫の安定した地域となつて広大な土地を農地として充分に活用することができました。戦後郊外の宅地化が各所で進みましたが、駅や大きな道路もないこの地は、ミニ開発も不可能な立地条件でした。しかし明治二十九年十二月国鉄常磐線が上野・土浦間に開通し、松戸、柏、我孫子駅ができました。明治四十四年三月北小金駅ができ、松戸小金町に電灯がつき、大正五年三月、流鉄線馬橋・流山間が開通。昭和四十八年四月に

は、国鉄武蔵野線新松戸・府中本町間の開通によって、新松戸駅が誕生

することとなり、この地の都市的土
地利用へと移る第一歩となりました。

新松戸一丁目から七丁目までの明治時代の大字・小字名と地図

新松戸	大字	小字
一丁目	小金	西
	大谷口	・本城・中郷・幸谷境・根郷谷
	幸谷	・上流・山ノ下・溜ノ脇・溜ノ下・溜ノ上・深追
	上総内	・常真寺前・丸山下
	殿平賀	・向山
二丁目	幸谷	・深追・上流・山崎・西田・向田
	二ツ木	・押出
三丁目	幸谷	・西田・山崎
	二ツ木	・下手・山手・六兵衛谷
	小金	・北・南
四丁目	幸谷	・山崎・上流
	小金	・北
	大谷口	・差向・幸谷境・忠仲
五丁目	大谷口	・差向
	横須賀	・指向
	小金	・鏡ノ下・北
六丁目	幸谷	・沖田
	小金	・金ノ下・北・南
七丁目	小金	・出作・大谷
	大谷口 新田	・上屋敷通・中通・谷下通



新松戸の都市化年表

昭和45・9	松戸市新松戸中央土地画整理組合設置認可申請 現在の新松戸一七丁目の戸数三二戸人口一六三人	55・3
45・12	松戸市新松戸中央土地画整理組合設置認可	54・7
48・4	国鉄武蔵野線新松戸一府中本町間開通	54・5
51・4	国鉄新松戸駅開設 馬橋北小学校開校 松戸青少年会館開館	54・4
51・5	新松戸コーポ入居開始(二三三戸)	54・3
52・4	新松戸地区上下水道使用開始	53・10
53・3	スーパーマツモトキヨシ(駅前店)開店 南パークハウス入居開始(四八二戸)	53・7
53・4	サンライトパストラル七番街入居開始(五七七戸)	53・5
53・5	新松戸ファミールハイツ入居開始(五八九戸)	53・4
53・7	新松戸ハイツ入居開始(二〇四戸)	53・2
53・10	新松戸南小学校開校	53・1
54・2	千葉銀行新松戸支店開行	53・9
54・3	第一勧業銀行新松戸支店開行	53・8
54・4	国鉄武蔵野線新松戸一西船橋間開通	53・7
54・5	スーパーマツモトキヨシ(中央店)開店	53・6
54・6	中央パークハウス入居開始(七七七戸)	53・5
54・7	サンライトパストラル式番街入居開始(五〇八戸)	53・4
54・8	サンライトパストラル参番街入居開始(一一〇戸)	53・3
54・9	新松戸南中学校開校	53・2
54・10	新松戸中央病院開院	53・1
54・11	新松戸駅前派出所開設	53・0
54・12	新松戸中央土地画整理組合換地処分	52・12
55・1	三菱銀行新松戸支店開行	52・11
55・2	東パークハウス入居開始(五五七戸)	52・10
55・3	サンライトパストラル五番街入居開始(八〇八戸)	52・9

昭和55・3	新京成バス運行開始新松戸駅一新松戸七丁目	61・9
55・4	新松戸中央郵便局開局	61・8
55・5	新松戸北小学校開校	61・7
55・6	新松戸中央保育所開所	61・6
55・7	新松戸南郵便局開局	61・5
55・8	西パークハウス入居開始(六八一戸)	61・4
55・9	サンライトパストラル六番街入居開始(二九六戸)	61・3
55・10	新松戸北中学校開校	61・2
55・11	新松戸南部保育所開所	61・1
55・12	新松戸北郵便局開局	61・0
56・1	松戸市新松戸市民センター開所	60・12
56・2	スーパータイエー(新松戸店)開店	60・11
56・3	流山電鉄幸谷駅新築移転	60・10
56・4	ユーカーパークハウス入居開始(一九六戸)	60・9
56・5	サンライトパストラル七番街入居開始(二六六戸)	60・8
56・6	新松戸北保育所開所	60・7
56・7	第一市営住宅入居開始(八五戸)	60・6
56・8	北千葉導水路松戸排水機場完成	60・5
56・9	新松戸郷土資料館開館	60・4
56・10	アゼリアパークハウス入居開始(二九〇戸)	60・3
56・11	サンライトパストラル八番街入居開始(二二〇戸)	60・2
56・12	スーパーパーマート(新松戸)店開店	60・1
57・1	三井銀行新松戸支店開行	60・0
57・2	新松戸支所管内五万人突破	59・12
57・3	新京成バス新松戸駅前一南流山駅前運行開始	59・11
57・4	新松戸駅前郵便局開設	59・10
57・5	第二市営住宅入居開始(六五戸)	59・9
57・6	財団法人新松戸郷土資料館認可	59・8
57・7	新松戸一七丁目戸数九〇四戸。人口二八八〇〇人	59・7

古文書を

読む会に参加して

新松戸七丁目

山里 倫子

新松戸郷土資料館の財団法人化が決まりましたこと、まことにおめでとございます。

三年前に古文書を読む会が出来まして、お誘いを受けた時、持ち前の好奇心から早速参加させていただきました。夜七時から、ひっそりと静かな資料館で、太古の出土品などに



(古文書を読む会)

囲まれて、江戸時代の人々のくらしに思いをめぐらせる二時間でした。何よりも、佐藤先生の多岐にわたるお話がすばらしく、参加者一同、それに魅せられて続けて来たと思います。

昔の人のことといっても、喧嘩あり、訴訟あり、本音と建前、現代人とあまりちがわないようです。より良い明日に向けて、古きを知るこの最適な会が、いつまでも続きますことを心より願っております。

江戸川の流れ

五番街 長窪 恒子

財団法人「新松戸郷土資料館」、そして「館報」の発行、おめでとうございます。資料館の益々の充実を多くの方々の御来館を心から願っております。

大雨の後、川幅を土手いっぱいに広げて流れる江戸川を見ました。吸込まれそうな速い流れに、恐ろしきを感じました。そして、もしこの土手がなかったら……。なかった頃の人々の生活は……。と思いを馳せました。一方、ミサイルは二十分で地球の裏側まで届く時代です。核の恐怖も現実です。すべて日進月歩の世

の中です。これでいいのでしょうか。時代の流れもつとゆつくりではないのでしょうか。資料館を見学して、ちよつと心を休めたついでに考えてみませんか。

夏休み子供歴史

教室の感想文より

新北小四年 若林 朋子

今年、先生に「歴史教室がある」と聞いたので、参加しました。

一日目は、公園の木を、はんにわかれ調べに行きました。あつい本のようになしろようをもらいました。とても気に入りました。公園の調べは午後で、午前中はいろいろな、ためになる話を聞きました。とても、おもしろかったです。

二日目は、北千葉排水機場に見学に行きました。水のおいがすごくくさかったです。午後は、まこもで馬を作りました。私は、さとう先生に大きい馬をもらったので、みんなから「すごいぞ、おまえ」と言われてしまいました。先生にももらった馬が親、自分で作った馬が子にしました。少し、館長さんにつだってもらいました。館長さんは、とても上手でした。

新南小五年 中島 裕二

ぼくは、七月二十三日、二十四日と、子供歴史教室に参加しました。去年は、街路樹の太さを測ったけど、今年は公園の木の太さを測りました。街路樹を測るのとちがって、虫がついていたり、木の場所をさがすのに、とてもやかかったです。

二日目は、午前中、松戸排水機場(第三機場)を見学しました。午後、うまをつくる前、水たまりでこけてしまいました。うまは、なかなか、うまくいきませんでした。つぎに、スイカわりをし、みごとにわりました。

来年も、参加したいと思っています。



(まこもの馬作り風景)

博物館実習を終えて

国士館大学四年

鶴沼 里美

今回、学芸員の資格取得の為に新松戸郷土資料館に七月二十三日から三十一日まで実習をさせて頂きました。短い実習期間でしたが、私にとって様々な意味で吸収することが多面にあるものでした。

大井館長、佐藤先生が核となり、六人の女性が活動しているこの資料館は、地域の人々の社会教育、生涯教育に大きく貢献しているのを強く感じました。単に展示物の陳列にとどまらず、地域の人々の生活に潤いを与える郷土資料館であることは、運営されている方々の生き方が強く反映されているのではないのでしょうか。何より、六人の女性の活動力と文化的生産力の高さに驚かされ、女性の素晴らしさを再認識致しましたことは大きな意義あるものでした。女性としての役割はもちろんのこと、人間としての生き方を確立されている六人の女性は、これからの女性のあるべき姿だと感じた反面、能力あ

る女性がすべてこのような場を与えられるとは限らず、自分の与えられた環境の中で最大限に自分自身を活かすことこそ、今後の女性のあるべき姿ではないかと自問自答し、これからの私の課題となったことが、第一の実習期間に得たことです。

新松戸郷土資料館で実習をさせて頂いたことは、単なる博物館の実習にとどまらず、これからの私自身の課題も得ることができました。お礼を申しあげます。

新松戸郷土資料館役員構成

理事長	大倉 邦夫 (大谷口)
副理事長	大井 弘好 (新松戸)
理事	松本 和那 (小金)
理事	吉岡 登 (大谷口)
理事	池田 孝誠 (大谷口)
理事	中嶋登志男 (小金)
理事	吉田 一二 (小金)
理事	渡辺 竹生 (小金)
理事	丸山善一郎 (小金)
理事	大塚 実 (幸谷)
理事	花嶋 巖 (幸谷)
理事	鈴木 豊一 (新松戸)
理事	齊藤 和実 (横須賀)
理事	鈴木 進吉 (新松戸)

新松戸郷土資料館職員

館長	大井 弘好
専門委員	佐藤 常雄
館員	小川 朋子
館員	貝塚 元子
館員	二宮由美子
館員	林田 広子
館員	藤田千寿枝
館員	望月 百代
監事	秋山 昇治 (新松戸)
監事	酒井 順一 (幸谷)
監事	渡辺 義宗 (小金)
監事	高橋喜久郎 (二ツ木)
監事	加藤 慧 (大谷口)
理事	吉岡 政治 (大谷口)
理事	林 正義 (二ツ木)
理事	谷口 光平 (新松戸)

◆「こんにちは、また来ました」という子供の声に顔がほころぶ館員。法人化になってますます張り切っています。展示物だけでなく公開講座、古文書を読む会、歴史教室などにも是非ご参加ください。

(小川)

◆昔の新松戸には、さまざまなくらしぶりがありました。街のほぼ真中にあります資料館には、その面影をパネルや民具でわかりやすく、見やすく展示がしてあります。お出掛け下さい。

(二宮)

◆資料館には、いつでも気軽に相談にのってくれるやさしいおかあさんがいます。夏休みの宿題だけではなく、図書館に来た時など、三階まで上がってきて下さいね。

(貝塚)

◆今年の夏、歴史教室で子供達と公園の木の調査をしました。けやき・いちよう・しい・ゆりの木・やま桜——植物音痴の私にも見分けがつくようになりました。バンザイ。

(林田)

◆新松戸郷土資料館は、皆さんの街の資料館です。この街の歴史の新しい一ページを皆さんと共に綴れたらすばらしいなあと思っています。

(藤田)

◆「市民センターの三階に、別世界のような素敵な資料館があったなんて知らなかったわ」とは来館して下さった方の感想。お待ちしております。

(望月)

「水車」

みずぐるま

館報のタイトルには、下谷地区の歴史に深い係りのあるもの、くらしに根ざしてきたものという事で、坂川・田舟・水車・河骨・沢瀉などが候補にあげられました。最終的には資料館の展示物の中でも、ひととき大きな存在の水車に決定いたしました。水車（みずぐるま）という柔らかな響きのあるタイトルです。

「水車」は「すいしゃ」と読まれ、流れの力を利用した穀物精粉用の臼を思い浮かべるかもしれません。しかし、館報のタイトルとしての「みずぐるま」は、漕漑や排水用に使われた足踏式の踏車です。踏車は、江戸時代の初期に、大坂の京屋七兵衛、同清兵衛によって初めて作られ

みずぐるま
水しゆら

たといわれております。これを用いて池や沼など流れのないところから、あるいは低い場所から高い場所へ用水を引きあげることが出来ます。逆に排水することもできました。水田地帯であった下谷地区では、池の魚をとったり、用水路を掃除するときの排水にも活躍し、最も大切な農具の一つとして、近年まで使われてきました。

使用方法は、羽根板を足で踏みながら回転させるという単純な仕事でしたが、夏の炎天下での作業は、時には足の裏がふやけて破れてしまうこともあるとてもつらい労働でした。下谷地区では、舟大工の作る水車は回転が軽く、使いやすいと評判が高く、遠くからの注文も受けていました。材料には、水に強い杉の赤味が用いられました。東葛地方では上質の杉がとれることから、材料のほとんどは松戸周辺の杉が使われ、芯棒にもやはり水に強いくぬぎが用いられました。

資料館では、館報「水車」踏車を「文車」とも表現したく思っております。館報の文章を通して、皆様とのコミュニケーションを深められれば幸いです。末長くご愛読下さい。

シンボルマーク

「おもだか」

— 沢瀉・面高 —

低湿地帯であった区画整理以前の、新松戸の坂川、用水路、水田には、ひるも・みずあおい・さんかくい・こうほね・おもだか等の水草が一面に生育していました。

資料館のシンボルマークに選びました「おもだか」は、新しい街の環境の中でも生き続け、現在も新松戸の水辺で見ることが出来ます。

顔の形に似た葉が葉柄の上に高くあるところから「面高」と称されるようです。また、葉が盾に似ているので武具にかけて「勝ち草」、花が咲くので「花グワイ」とも呼ばれます。下谷地区では「おとけなし」という名で知られていました。夏に小さな三弁の白い花を付けます。「おもだか」は、強い生命力のある水草として古くから「立沢瀉」「抱沢瀉」などの家紋に使われています。



〈資料館利用のご案内〉

- ▽開館日 毎週水曜日・日曜日
- ▽時間 10時～16時（ただし、入館は15時30分迄）
- ▽入館料 無料
- ▽所在地 松戸市新松戸3-27
新松戸市民センター3階
- ▽電話 ☎44・1909

編集後記

けやき通りに枯葉の舞う季節を迎えました。

財団法人の発足・資料館の再スタートにあたり、開館以来念願の館報「水車」を発行することができました。創刊号は、市長・その他各方面の方々からお忙しい中を御挨拶、御寄稿をいただきました。ありがとうございます。「水車」は皆様と資料館のふれあいの場にしていきたいと思っております。皆様とともに、今までの新松戸の歩みを大切に、これからの新松戸を創っていききたいと思っております。

新松戸の今と昔に関する皆様からの御投稿をお待ちしております。